

## 第十八回村落社会研究会総会報告

十月二八日午後四時三〇分より、総会を開催しました。以下はその議事の報告です。座長には内藤蕨爾委員がえらばれました。

一、事務局報告、事務局および運営委員会の年度中の活動について報告。

二、会計中間報告、昭和四四年十一月以降大会前までの会計の概要について報告、承認した。

一、編集委員会報告、小池基之編集委員より、年報第六集の編集と刊行、村落社会調査研究叢書第一集・第二集の刊行ならびに編集の状況について報告。さらに「年報編集についての申合せ」(研究通信七三号参照)を提案し、承認された。

会費の件、本会の会費を一九七一年度より、年額一〇〇〇

円に改めることを提案し、承認された。

二、次年度大会共通課題の件、総会翌日に行なわれる今年度の共通課題についての討議の結果について、運営委員会において検討し次年度の共通課題を決定することとした。

一、次期事務局の決定、次期事務局は成蹊大学にお願いととした。なお大会開催地は、関西地区または中国地区の会員の方々にお願いして決定していただくこととした。

二、運営委員および編集委員改選の件、二年間の任期が満了したので、委員を改選することとし、総会において選考委員七名をえらび、総会終了後つぎのように新委員を選任した。

運営委員——安孫子麟、黒崎八洲次良、矢木明夫、塚本哲人、安原茂、吉沢四郎、高山隆三、服部治則、村長利根明、牧野由朗、後藤和夫、余田博通、松本通晴、竹田聰洲、山本陽三、原宏、内藤蕨爾

編集委員——小池基之、福武直、中野卓、島崎稔、川本彰、柿崎京一、園田恭一、蓮見音彦

三、その他 ①一九七二年に本会は第二〇回大会を迎えるので、何らかの記念の催しを考えてはどうかという提案があり、研究通信の集成などの話題が出された。

②川越淳二会員より愛知大学村落研究文献センターの事業について説明があり、文献目録第一集を希望者に配布すること、今後とも目録充実のため協力をえたいことがのべられた。